情報提供資料

eastspring investments

A Prudential plc (UK) company

イーストスプリング
インド投資マンスリー

2023年2月号

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国プルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるプルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

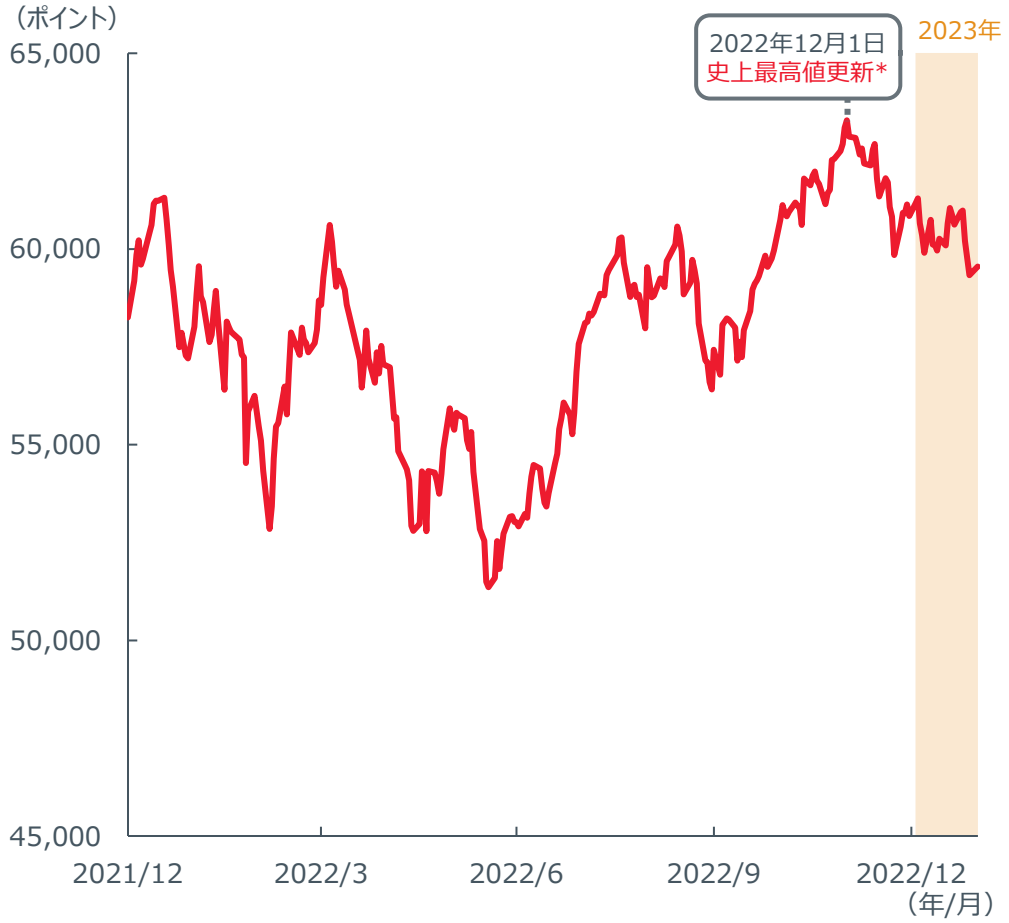
この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

インド投資マンスリー
動画配信中！

230206(09)

株式：アダニ・グループ関連報道を嫌気し下落

SENSEX指数の推移（2021年12月末～2023年1月末、日次）



2023年1月の振り返り

インド株式（SENSEX指数）は、2.1%の下落となりました。

好調な海外市況等を背景に月の後半までは比較的安定的に推移していましたが、月末近くにインドの財閥アダニ・グループに対する米投資会社による不正会計疑惑の指摘を受けて関連銘柄が急落、インド株全体にも売りが波及しました。

セクター別では、情報技術と一般消費財を除くすべてのセクターで下落しました。また、中型株と小型株はそれぞれ2.7%、2.5%の下落となりました。

1月の売買動向は、海外機関投資家は売り越した一方、国内機関投資家は買い越しました。

規模別指数の期間別騰落率（2023年1月末時点）

	1ヵ月間	3ヵ月間	6ヵ月間
大型株（SENSEX指数）	**-2.1%**	**-2.0%**	**3.4%**
中型株（BSE中型株指数）	-2.7%	-2.8%	2.5%
小型株（BSE小型株指数）	-2.5%	-2.1%	4.2%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※全てプライス・リターン、インドルピーベース。*終値ベース。

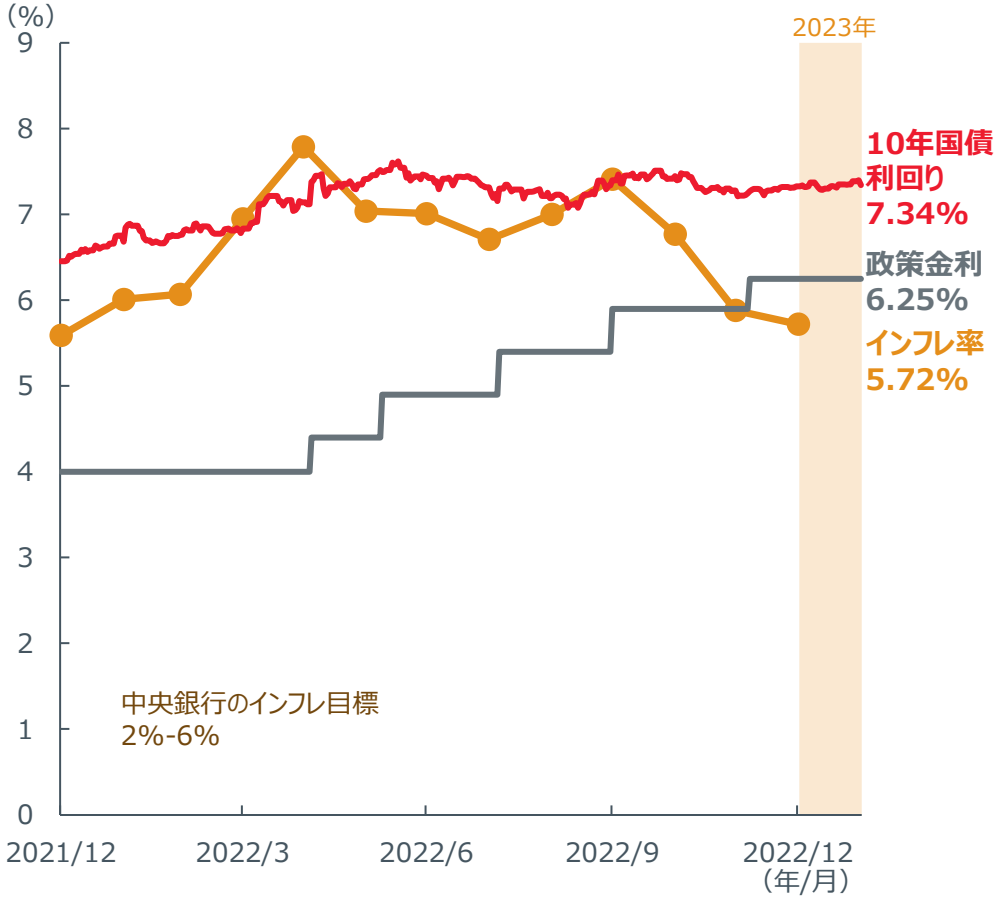
eastspring investments

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

債券：10年債利回りは小幅上昇、インフレ率は3ヵ月連続低下

政策金利*、インフレ率**、10年国債利回りの推移

（2021年12月末～2023年1月末、日次）



2023年1月の振り返り

10年国債利回りは小幅上昇（価格は下落）し、7.34%で月を終えました。

12日発表の2022年12月のインフレ率は、前年同月比+5.72%となり、RBIの目標上限である6%を2ヵ月連続で下回りました。食品価格の下落、特に野菜価格の下落が要因でした。

なお、海外機関投資家は3ヵ月ぶりにインド債券を買い越しました。

債券利回りと利回り差の変化幅

	2023年1月末	2022年12月末	変化幅
10年国債利回り	**7.34%**	**7.33%**	**0.02%**
10年社債利回り***	7.78%	7.77%	0.00%
利回り差	0.43%	0.45%	-0.01%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年12月まで。
***10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA Year Corporateの利回りを使用。
利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

eastspring investments

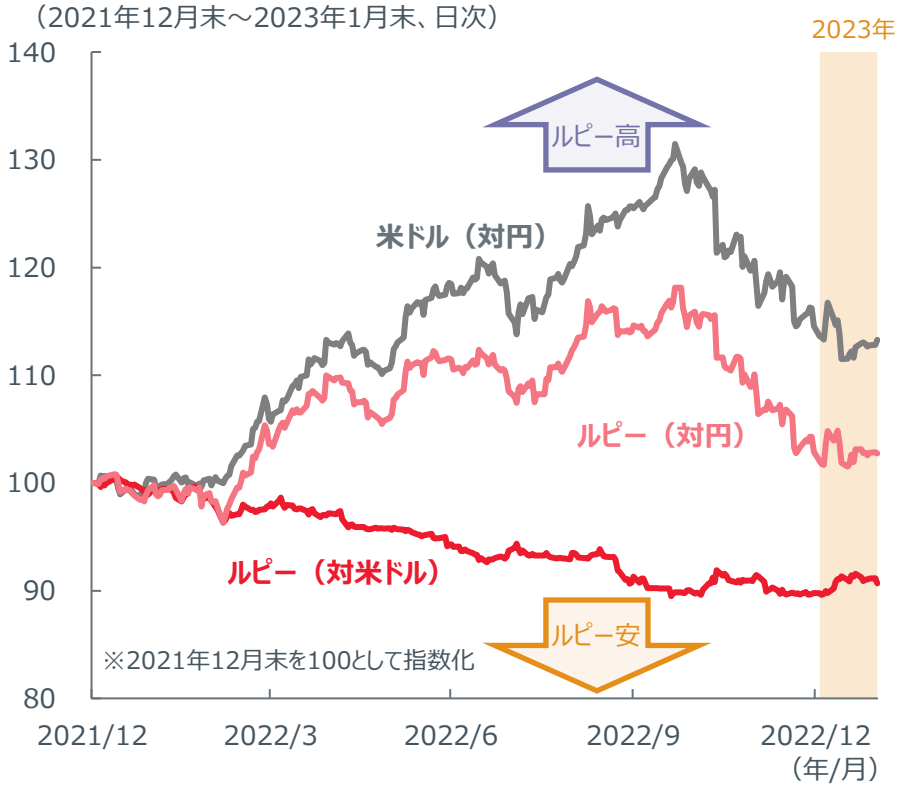
● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

為替：ルピーは対米ドルで上昇、対円では小幅下落

- 1月のルピーは、対米ドルで1.0%上昇、対円では0.1%の下落となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨と比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。

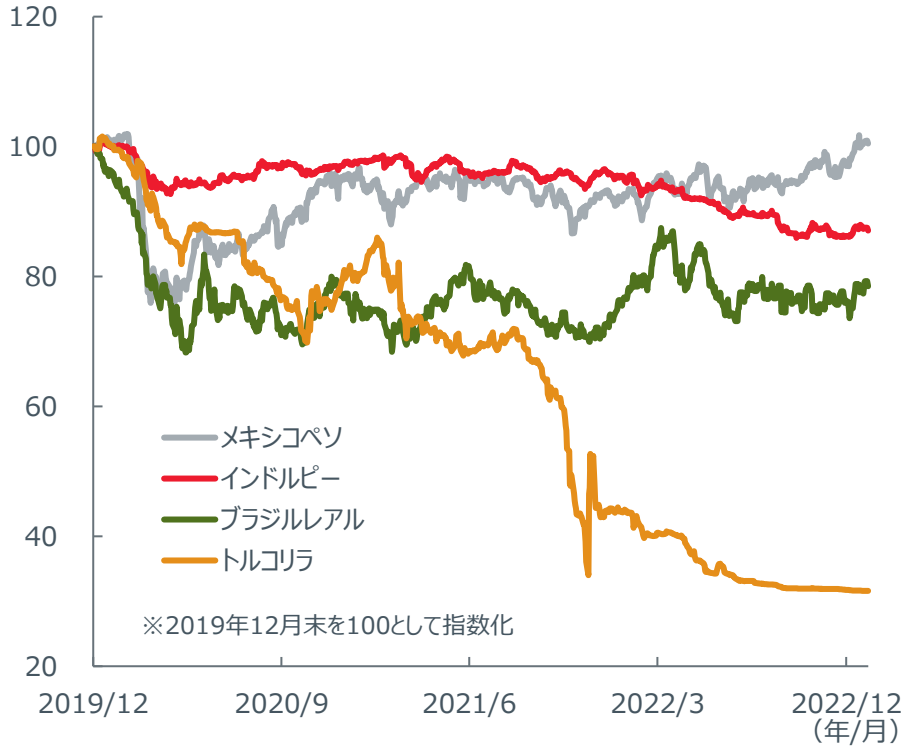
ルピー（対米ドル、対円）の推移

（2021年12月末～2023年1月末、日次）



主要新興国通貨（対米ドル）の推移

（2019年12月末～2023年1月末、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

eastspring investments

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

IMF世界経済見通し　-インドは変わらず、6%台の成長を予想-

- IMF（国際通貨基金）は1月30日、最新の世界経済見通しを発表し、2023年の世界の経済成長率を+2.9%と、前回の2022年10月時点から0.2ポイント引き上げました。ゼロコロナ政策を緩和した中国を中心に幅広い国・地域の成長率を上方修正しました。一方、物価上昇に対応するための各国中央銀行による利上げやロシア・ウクライナ情勢が引き続き経済活動の重しになっているとしました。
- インドの経済成長率については、2023年は6.1%に低下するものの、内需の底堅さを背景に2024年には6.8%に回復すると予想しています。また、インフレ率は、2022年度の6.8%から2023年度は5%に低下し、2024年には4%に低下すると予想しています。

主要国・地域の実質GDP成長率見通し

（単位：%、2021年～2024年）

			2021年（実績）	2022年（推定）	2023年（予測）	2023年 前回差	2024年（予測）	2024年 前回差
世界			6.2	3.4	2.9	0.2	3.1	-0.1
	先進国		5.4	2.7	1.2	0.1	1.4	-0.2
		米国	5.9	2.0	1.4	0.4	1.0	-0.2
		ユーロ圏	5.3	3.5	0.7	0.2	1.6	-0.2
		日本	2.1	1.4	1.8	0.2	0.9	-0.4
	新興国		6.7	3.9	4.0	0.3	4.2	-0.1
		インド	**8.7**	**6.8**	**6.1**	**-**	**6.8**	**-**
		中国	8.4	3.0	5.2	0.8	4.5	-
		ASEAN5*	3.8	5.2	4.3	-0.2	4.7	-0.2
		ブラジル	5.0	3.1	1.2	0.2	1.5	-0.4

出所：IMF世界経済見通しデータベース（2023年1月）のデータ、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*ASEAN5は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。

eastspring investments

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

2023年度予算案　-国内製造業振興とインフラ整備の促進-

- インド財務省が2月1日に発表した2023年度（23年4月～24年3月）の国家予算案は、**歳出総額が前年度当初予算比14%増の約45兆ルピー**となりました。
- 財政赤字縮小とインフラ関連（設備投資）の促進のバランスを重視し、バラマキ政策は回避されました。総じて成長を重視し、中間所得者層への税制優遇や国内製造業振興、鉄道や道路などのインフラ整備を促進する内容です。**インフラ整備が軸の資本支出は33%増の10兆ルピー**となり、インフラ関連部門には追い風と言えます。

2023年度の国家予算案の概要

項目	主な施策
財政収支	✓ 2022年度の財政赤字は当初予算の（対名目GDP比）6.4%で維持 ✓ **2023年度の財政赤字目標は対名目GDP比で5.9%とし、2025年度までには4.5%まで削減させる方針を維持** ✓ 政府借入金は、債券発行による11.8兆ルピーと少額貯蓄制度による4.7兆ルピーで賄う予定
インフラ関連（設備投資）	✓ **2022年度の7.5兆ルピーから、33%増の10兆ルピーへ拡大** ✓ 過去最高額の鉄道への資本支出、二級・三級都市での公共インフラ整備に向けて年間1,000億ルピーの基金を設立
ビジネス障壁の緩和	✓ **法務手続きの削減、中小・零細企業向け信用保証制度の刷新、商業上の紛争解決のための新スキームの導入** ✓ 会社法に基づくフォームを提出する企業への迅速な対応のため、中央処理センターを設立
デジタル関連	✓ 5Gアプリケーションの開発のため、トップクラスの教育機関に3つの人工知能の研究拠点と100の研究室を設立予定 ✓ 「本人確認手続き」の簡素化と、政府機関や規制当局が管理する個人ID更新のワンストップソリューションの確立
グリーン投資関連	✓ エネルギー転換と2070年までのインドのネット・ゼロ目標達成に向け3,500億ルピーを投資 ✓ 低炭素燃料への移行を促進し、化石燃料の輸入を減らすために1,970億ルピーを支出 ✓ 再生可能エネルギーの送電と系統統合のための州間送電システムに2,070億ルピーを投資
その他	✓ 自動車：**EV普及のため、総支出を2022年度の290.8億ルピーから2023年度は517.2億ルピーに増加**、商用車の需要拡大に向けた設備投資支出の増加 ✓ 税制：個人所得税還付の所得上限引き上げ、給与所得者および年金受給者の標準控除の適用範囲拡大、高所得者の所得に関する最高課徴金の引き下げ

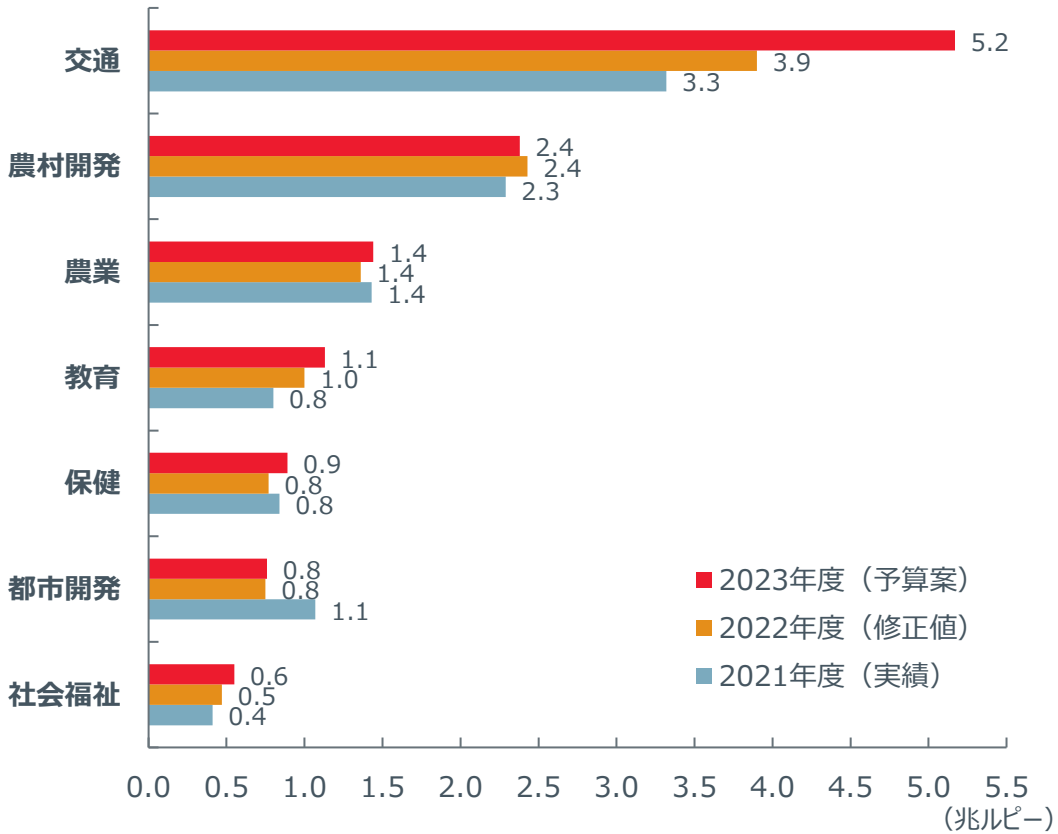
出所：インド政府、ICICIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。2023年度は2023年4月～2024年3月。

eastspring investments

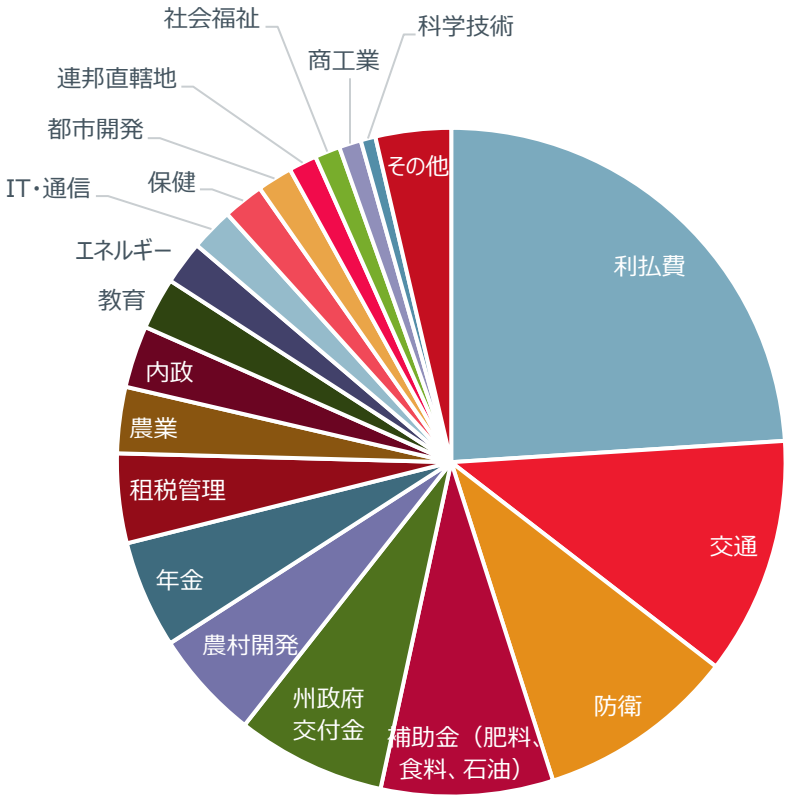
● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

2023年度予算案　-歳出項目の動向と構成-

歳出項目の動向



歳出構成

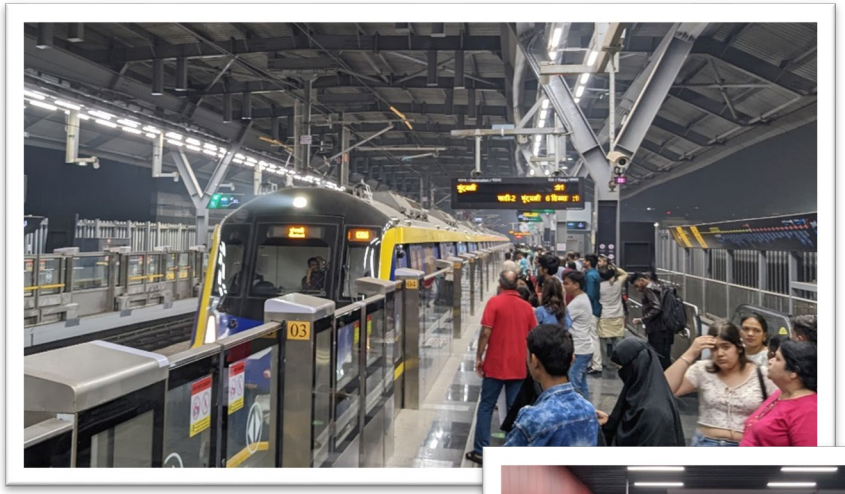


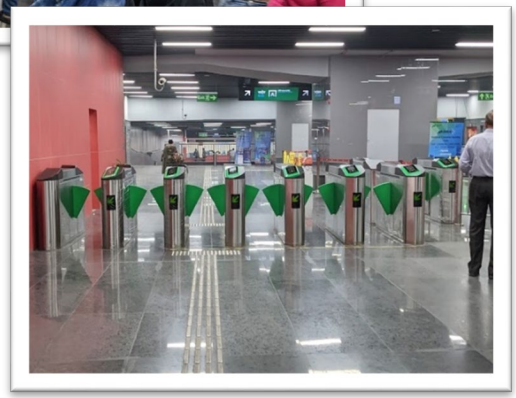
出所：インド財務省発表資料に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。2023年度は2023年4月～2024年3月。

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

急拡大するインドの地下鉄網 -ムンバイで地下鉄新路線が開業-

◆ インド最大の都市であり、商業・金融の中心であるムンバイで、地下鉄新路線が開業しました。1月20日の運行開始に先立ち、19日にはモディ首相が訪れ、新規路線である7号線に乗車、若者や女性、地下鉄社員と交流しました。外にはモディ首相を一目見ようと多くの人が集まりました。





【7号線】
ムンバイ中央のAndheriからムンバイ北部郊外のDahisarを結ぶ。路線距離は16.5km（13駅）。
ムンバイ国際空港や特別経済区、国立公園にもアクセス可能。道路状況にもよるが移動時間を50-75%短縮することが期待される。

高い位置までホームドアが設置され、また全ての駅が自動改札となっている。
インド全土の地下鉄で標準化されている。

【2A号線】
ムンバイ西部のDN Nagarからムンバイ北部郊外のDahisarを結ぶ。路線距離は18.6km（17駅）。
この区間はムンバイで最も交通量の多いルートの1つとされ、7号線と同様、移動時間の短縮が期待される。

行動制限がなくなり、誰もマスクをしていない。
初乗り運賃は10ルピー（約15.9円*）。
車内は綺麗で快適な乗り心地。

出所：ICICIAM、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。*2023年1月末時点。

eastspring investments

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

※ MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
※ 業種区分は、原則としてMSCI/S&P GICSに準じています。GICSに関しての知的財産権は、MSCI Inc.およびS&Pにあります。